

(写真・文 吉岡義雄)

イナゴモドキ

(学名: *Mecostethus parapleurus*)

【バッタ目バッタ科】



▲交尾する雌雄。大きいメスの背に小さいオスがしがみつきます。オスは、体色が黄色かつ発達した触角があり、イナゴ類と見分けが付きやすい

▲イナゴモドキ(上)とコバネイナゴ(下)の幼虫。一見よく似るが、頭部から胸部にかけての角ばりの有無で見分けられる。また、前肢の間の突起の有無でも識別できる(イナゴモドキは突起がない)

北海道から九州にかけて分布し、主に山地の草原に生息します。かつては関東の平野部にも広く生息していた記録が残っていますが、現在では局所的にしか見られません。平野部から姿を消した理由として、生息に適した草地が開発によって消滅したためと指摘されています。

その名の通り、一見するとイナゴに似ていますが、トノサマバッタに近い仲間です。生息環境はトノサマバッタが好む荒地ではなく、イナゴと同様に背が高いイネ科植物のしげる草地を好みます。このような地面が露出せず、植物にしがみついで生活する必要がある環境では、トノサマバッタのような大型でがっちりした体型よりもイナゴのような小型でスマートな体型の方が適しています。こうした草地の好みは形態に反映されているのだと考えられます。

只見では明るい草地で普通に見られます。一般に乾燥した環境を好むとされていますが、日当たりがよければ、湿った草地にも姿を現します。6月上旬に孵化し、7月上旬には成虫が見られます。10月にも少数の活動が見られるものの、9月ごろからコバネイナゴと入れ替わるように急速に数を減らしていきます。

只見町ブナセンターからお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「只見のカエル」

会 期：2022年6月11日(土)～2022年9月12日(月)
場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー